

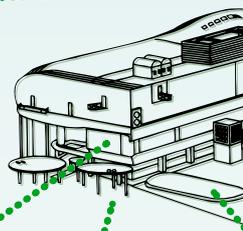
特集 ぐるっと図書館アートの旅

一般的に、アート（美術作品）は美術館などに置かれるもの・鑑賞されるものと考えてしまいがちです。今回の特集は、宮城県図書館の建物の機能の一部となっていたり景観を整えるものとして存在するアートをご紹介します。アートディレクター北川フラムさんプロデュースのもとに世界で活躍している6人のアーティストが参加し、周囲の環境や特徴をいかしたアートをつくりあげました。図書館をぐるっとまわって、その6人の素晴らしい作品をめぐる旅をご案内しましょう。

川俣 正/Tadashi Kawamata (日本) 作

『書見の道』

図書館の目の前にある鬱蒼とした森。そこには枕木を敷いた小道があり、東屋が点在しています。北海道生まれである川俣さんが、自然の中に「公園としての図書館」というイメージをふくらませました。地形広場につながる木々に囲まれた敷地全体がアートとなっています。



ジョゼ・デ・ギマラス/José de Guimarães (ポルトガル) 作

<案内板アート(サイン)>

子ども図書室の大きな案内板をはじめ、図書館の各表示には絵本からとびだしたような楽しい絵が描かれています。これは図書館という空間を舞台に1つの物語を創造し、その登場人物や場面が建築の案内役として館内外に展開されている作品です。この明るい色彩は、ギマラスさんが28歳頃から7年間アフリカの風土にふれてきた影響によるものかもしれません。



ベルナール・ブネ/Bernar Venet (フランス) 作

『88.5°ARC (88.5度の弧)』 H10000×W460×D460mm

正面エントランス広場に設置された「宮城県図書館」の館名を表示する塔です。ブネさんの作品には2つのパターンがあり、1つは機械的で正確な円弧、もう1つはまっすぐな角棒をぐるぐる巻いて輪にしたものです。図書館の作品は前者にあてはまる円弧状の塔で、円弧の角度88.5度が刻まれています。



2004年6月、館内外の案内板アート(サイン)の作者、ジョゼ・デ・ギマラスさんが来館されました。

ギマラスさんへ質問

- Q サインは全体として物語になっているのですか？
A history (歴史、物語) を表現しています。
- Q サインにはヘビがたくさん描かれていますが、どうしてですか？
A メソアメリカ (メキシコ高原からパナマ地峡にわたる地域) では、ヘビは生命のシンボルなのです。
- Q 日本のほかにどんな国で仕事をしていますか？
A メキシコ、マカオ(中国)、カナリア諸島(スペイン)、ドイツなどです。
- Q 宮城県図書館のほかに、日本でギマラスさんの作品を見ることが出来ますか？
A 釧路市、秋田市、新潟県川西町、渋谷区代官山、立川市、西宮市などに作品があります。

ギマラスさんからのメッセージ

"Desejo que as obras de pintura dos símbolos que realizei para a Biblioteca de Miyagi inspirem todos os leitores que a frequentam."

José de Guimarães



“私が宮城県図書館のために作成した案内板のデザインを見て、訪れるすべての利用者の皆さんが、何らかのインスピレーションを感じられることを心より願っています。”

ジョセフ・コースス/
Joseph Kosuth (アメリカ) 作

『Twice Defined (二重の定義)』 H200×W41300×D100mm

地形広場の壁面に、日本語と英語の言葉が並んでいます。これは、大槻文彦の初版『言海』(1891年)、ウェブスターの『簡明英語辞典』(1806年)、近代日本とアメリカの最初の国語辞典が共有する単語の中から、図書館という空間にあうものを選び作品として完成させたものです。東西の言語が、ことばの海の水平線のように、歴史的・具体的につながっていくアートになりました。

ジャン・フランソワ・ブラン/
Jean Francois Brun (フランス) 作

『Les perrees du jour (1日の始まり)』 H3500×W800×D300mm

駐車場のポール状の照明は、夕方になると青や緑の灯りがともります。これは駐車場を庭園に見立てて歩道に沿って照明灯を並べ、自然を施設に映しこむイメージのアートです。なお、図書館前の歩道(バス通り)の足下の埋設照明(直径254mm)は『Les miroirs du ciel (空を映す鏡)』と題され、自然をシャープに切り取った写真のイメージが浮かびあがる同じブランさんの作品です。

メナシェ・カディシュマン/
Menashe Kadishman (イスラエル) 作

『Kissing Birds (キッシングバード)』 H4000×W2000mm

正面入口北側、笹でおおわれ草木が茂る小高い場所に見え隠れする2羽の鳥。この鉄板を使ったレリーフ作品は、設備配管を覆うスクリーンとしても機能するようデザインされています。この切り絵のようなアートは、素材が鉄であるにもかかわらず温かみを感じさせる作品となっています。

図書館 a r o u n d t h e み や ぎ

◆シリーズ第12回

蔵王町立図書館

館長 鹿島 茂

蔵王町は農業と観光を柱として町づくりを進めており、農業は日本一の生産量を誇るツルムラサキや県内一の梨・桃などの果樹類、高原地帯では酪農が盛んに行われています。観光も蔵王のお釜をはじめ三階滝、蔵王ハートランド、みやぎ蔵王えびしスキー場、みやぎ蔵王こけし館、遠刈田温泉等観光資源にも恵まれ、農業と観光の融和を図りながら町の活性化を進めてきています。また、その一環として文化会館の入り口では毎週土日にございん市を開催しており、町内産の果樹・野菜・たまご等を安価で販売しております。

蔵王町ふるさと文化会館は蔵王町の生涯学習の拠点として、町民の多様なニーズに応えるため、「多目的ホール」、「図書館」、「公民館」の機能を併せ持つ複合文化施設として、7月22日にオープンいたしました。蔵王町立図書館の面積は約494㎡で7月22日現在、蔵書数は、図書約27,000冊、視聴覚資料約700点、雑誌約120誌、新聞9誌を揃えております。図書館の内部は自然の光と木材をふんだんに取り入れ、安らぎを感じられるよう設計されております。

開館時が夏休みということもあり、町民の皆様や他町村の皆様にも多数ご来館いただきました。今後も老若男女がいつでも集まれる図書館を目指していきたくと考えております。図書館は町内の方はもちろん仙南2市7町の方々にも図書の貸出が可能になっておりますので、蔵王町へ行楽等でおいでの際は是非お立ち寄りください。



蔵王町立図書館

▼データ

- 蔵書冊数：資料数27,501冊 (7月22日現在)
- 開館時間：火～金曜日 10:00～19:00
土日・祝日 10:00～18:00
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日休館)
毎月末日
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間

住所：〒989-0821 刈田郡蔵王町
大字円田字西浦5

TEL：0224-33-2018

FAX：0224-33-2019

ホームページ：なし

メールアドレス：toshokan@town.zao.miyagi.jp

- 交通案内：宮城交通バス
蔵王町役場前下車 徒歩1分